

令和2年度尼崎市食育推進懇話会議事録

日時	令和3年1月29日(金)午後2時～3時30分
場所	尼崎市保健所 集団指導室及び Web 会議システム(Zoom) ※併用形式で開催
出席者	【会場】内田委員、成松委員、三浦委員、向井委員、由田委員 【Web】小笹委員、里村委員、都倉委員、中川委員、藤原委員、増本委員、 松谷委員、水内委員 (以上出席 13 名)
欠席者	濱名委員
事務局 拡大事務局	【会場】保健部(新家部長) 健康増進課(堀池課長、辻係長、辻野、福本(記録)) 南部地域保健課(岡本係長、島野) 北部地域保健課(中川係長) 【Web】保育運営課(中田課長) 農政課(松本課長) 学校教育課(代理:大森総括、岩崎指導主事)
議事	(1)第2次尼崎市食育推進計画の進捗状況について (2)食に関するアンケート調査について ・食育に関するアンケート ・食生活に関するアンケート (3)その他 ・第2次尼崎市食育推進計画の今後の方向性について
資料	・令和2年度尼崎市食育推進懇話会次第 資料1 : 尼崎市食育推進懇話会委員名簿、尼崎市食育推進懇話会設置要綱 資料2 : 第2次食育推進計画評価指標の進捗状況 資料3 : 第2次食育推進計画進捗管理シート 資料4-1: 令和2年度「食育に関するアンケート」調査の結果(概要) 資料4-2: // (全体) 資料5-1: 「食生活に関するアンケート」調査の結果(概要) 資料5-2: // (全体)

1. あいさつ

事務局	皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、令和2年度尼崎市食育推進懇話会をはじめさせていただきます。 私は、健康増進課の堀池と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。 今回は、初めて会場と Zoom の併用で開催をしております。諸所で時間がかかるかもしれませんが、ご了承願いますようよろしくお願い申し上げます。 開会に先立ちまして、保健部長の新家からご挨拶を申し上げます。
事務局	お世話になっております。尼崎市保健部長の新家でございます。 本日は、大変お忙しい中、また、緊急事態宣言が発令される中、約1年ぶりの開催になりま

	<p>すが、ご出席いただきましてありがとうございます。この度は、新たに2名の新委員にご参加いただいております。後ほどご紹介させていただきます。</p> <p>お手元の次第にもありますように、まず、食育推進計画の進捗状況につきまして、取組の柱ごとに要点を絞り、ご報告をさせていただきます。続いて、食育・食生活に関するアンケート調査の結果について、分析を加えながらご報告をさせていただきます。</p> <p>なお、事業全体の取組の視点については、これまでと変わっておりません。「地域で子どもの食を支え、地域の中で食を伝える」という視点と「地域での取組」、「子育て支援」というキーワードで取り組んでおります。</p> <p>今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けまして、皆様方の活動にも制約があったものと存じますが、尼崎市民1人1人が日ごろから健康で安心・安全を実感しながら生活していけるように、皆様におかれましては、最後まで忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>そして今回、冒頭でも触れましたが、Zoom を併用した形での実施となりまして、皆様にはご不便をかけることとなりますが、ぜひご理解いただければありがたいと思っております。それでは、会議自体も少し駆け足になるかもしれませんが、最後までどうぞよろしくお願い致します。</p>
--	--

2. 新委員紹介(資料1)

事務局	<p>はじめに新委員の紹介をさせていただきます。</p> <p>異動等の関係で、お二人の方に新しく委員になっていただいております。お一人ずつお名前を申し上げます。</p> <p>生活協働組合コープこうべより、一瀬委員に代わりまして、新たに小笹三津子委員をご推薦いただいております。よろしくお願いいたします。</p> <p>また、尼崎市PTA 連合会より、高谷委員に代わりまして、新たに藤原隆委員をご推薦いただいております。よろしくお願いいたします。</p> <p>委嘱状につきましては小笹委員、藤原委員は Zoom でのご出席のため、送らせていただいております。</p> <p>続きまして、事前にお送りしています資料に訂正がございます。資料 1: 尼崎市食育推進懇話会委員名簿をご覧ください。</p> <p>園田北まちづくり協議会 内田委員は、園田北小学校区まちづくり協議会の会長にご就任されております。</p> <p>内田委員、大変失礼いたしました。なお、正式な資料は、後日お送りいたします。</p> <p>小笹委員、藤原委員、一言ずつ、ご挨拶をお願いいたします。</p>
委員	<p>コープ立花の小笹三津子と申します。昨年、8月24日にコープ立花店が閉店致しまして、建て替え工事に入りました。そして、横で仮設店舗として食料品を提供する等、営業しております。そこで店長をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>尼崎市PTA 連合会副会長、日新中学校のPTA 会長をさせていただきます藤原と申します。よろしくお願いいたします。昨日も松本教育長と連合会と一緒に懇談会をしていました。意見がありましたら、伝えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>

事務局	<p>どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、濱名委員は、所用によりご欠席でございます。</p> <p>また、里村委員は、まだ入室されておりませんが、Zoom でご出席予定です。</p> <p>それでは、これより議事に入らせていただきます。</p> <p>由田会長、よろしくお願いいたします。</p>
-----	---

3. 議事 (1) 第2次尼崎市食育推進計画の進捗状況について(資料2, 3)

会長	<p>皆様、こんにちは。本日は Zoom との併用の形で、私も不慣れで、ご迷惑をかけると思いますが、よろしくお願いいたします。それでは、議題(1)第2次尼崎市食育推進計画の進捗状況について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>はじめに、第2次尼崎市食育推進計画について、ご説明させていただきます。</p> <p>本計画は、H27年度からR2年度の6か年を計画期間としており、「生きる」ための基礎となる「食べる」を見つめ直し、次世代に伝える計画です。計画の基本理念として「みんなの『いただきます』『ごちそうさま』が人をはぐくむ あまがさきをはぐくむ ～食ではぐくむ笑顔あふれるまち～」を目指し、3つの食育目標「食を通じて豊かな心をはぐくむ」、「食を通じて健康な体をつくる」、「食の大切さを次世代に伝える」を定め、目標達成の施策展開として、6つの取組の柱をあげ、具体的な取組につなぎ、推進しております。</p> <p>食育の主な取組を行っている市関係課の取組の進捗管理の報告から、取組の柱ごとの「施策の方向性」を軸に、課題を明確にし、今後の取組の方向性を検討したいと考えています。</p> <p>次に、進捗状況についてご説明いたします。【資料2】、【資料3】をご準備ください。</p> <p>まず、【取組の柱1】家庭での食育力をつけるです。</p> <p>施策の方向性は、「食を選択する力を身につける」、「妊産婦・乳幼児に対する食育の推進」、「食に対する感謝の気持ちの涵養」、「次世代に伝える」の4つで、具体的な取組内容は8項目です。評価指標「①いただきます ごちそうさまの挨拶を必ずする」幼児の割合は、計画策定時 H26 年度 75%、R2年度 70%であり、目標の 80%には達していません。「⑤朝食を毎日食べている」幼児の割合については、計画策定時 H26 年度が 94%、R2年度は 96%であり、目標値 100%に対して、H27 年度からの6年間では 95%以上で推移しています。</p> <p>具体的な取組内容として、「乳幼児健診における栄養指導・歯科指導、離乳食講習会」においては、組織変更により H30 年1月より実施場所を南北保健福祉センターに変更し、離乳食講習会においては、出前型講座や今年度はオンライン講座を導入しました。また、第1子を中心に必要な情報や受講時期を周知できるよう、電子母子手帳などを活用し、広報・啓発に注力しています。さらに、幼児の親子を対象とした体験型講座も実施してまいりました。成果として、家庭における食育の実践に向け、離乳食講習会ではオンライン講座も導入できましたが、課題として、「料理体験」「試食」を中止しており、現時点では再開が困難であることから、今後は、オンラインを活用したセミナーを継続しつつ、他の取組方法、調理実演や試食に代わる効果的な取組を検討し実施してまいります。</p>

次に、【取組の柱2】保育所(園)、幼稚園、学校等における食育の推進です。

施策の方向性は、「保育活動や教育活動を通じた食育の推進」、「指導体制の充実」、「給食を通じた食育の充実」、「農業体験や調理等体験活動の推進」、「保護者への普及啓発・地域との連携」の5つです。評価指標「④食育活動・学習の機会に参加する中学校、高校」は20校前後で推移しています。「⑥肥満度 20%以上の子どもの割合」は、3歳児で計画策定時1.7%からR2年度1.8%、小学生は7.6%から7.4%、中学生は8.4%から8.5%と横ばいの状況となっています。本計画では、特に、食習慣の自立の時期である「中学・高校生」及びその前段階である「小学生」も含めたアプローチに努めることとしており、実践をコンセプトに取り組んでいる具体的な取組について報告します。

「保育所」においては、季節感や幅広い食材の使用などに留意した給食を提供するほか、菜園活動や料理活動等、保育での実践活動、家庭や地域に向けた食育の取組の発信を行ってまいりました。行事食等のなかよし給食、たっぷり野菜の日、アレンジした給食等の特色ある給食を毎月1回以上、継続して実施できております。課題として、今年度は4-5歳児の肥満度出現率が増加していたため、今後の取組として、関係課と連携した情報共有と対策に並行して、給食での取組も検討してまいります。

続いて、「小学校」における取組を報告します。

尼崎市内産の尼いもや田能の里芋、米、小松菜等を使用した給食の提供や10月のひょうご食育月間には学校給食展を実施してまいりました。市内産の食材を使用した成果として、生産者の顔が見えることによって、食材への関心を深めることができ、使用予定数量の確保が難しいという課題はございますが、今後も継続する予定としております。また、給食だより等の情報発信や学校現場での指導体制の充実にも努めてまいります。

次に、【取組の柱3】地域みんなで取り組む食育の推進です。

施策の方向性は、「食文化の継承」、「食育に携わる人材の育成と活用」、「事業者との連携による食育の推進」の3つで、具体的な取組内容は3項目です。「⑪市や地域と連携して食育活動に取り組む組織・団体の数」が、計画策定時42であったところ、R1年度には103組織へと、目標の50を上回っています。こちらに関しては【取組の柱6】で説明いたします。

具体的な取組として「健康づくり推進員の育成・活動支援」について報告します。「味噌作り」「おせち料理」「尼崎市産・旬の野菜を使った料理」等、日本型食生活の実践に向けた啓発活動を継続して行っております。また、懇話会の委員の皆様をはじめ、関係機関と連携して地域活動へ展開できるよう、活動支援を行った成果として、朝食習慣づくりの実践に向け、「どこでも・誰でも・簡単に」できる「子どもクッキング」をパッケージ化することができたほか、栽培から共食、一緒に食べることまでの一貫した取組を増やすことができました。健康づくり推進員数の減少と高齢化という課題はありますが、引き続き市民目線の食育活動や情報発信ができるよう、取り組んでまいります。

次に、【取組の柱4】地産地消・環境にやさしい食育の推進です。

施策の方向性は、「生産者と消費者との交流」、「自然環境に配慮した食育の推進」の2つで、具体的な取組内容は3項目です。「⑫郷土料理や地場産物を活用することを心がける人の割合の増加」に向け、農政課や地方卸売市場が主体となり、様々な取組を継続して行っております。

具体的な取組内容として、「農業祭」について報告します。農業者の営農意欲の向上や市民の本市農業に対する理解や関心を深めてもらうことにより、地産地消の推進ならびに農業振興、農地保全を図ることを目的に実施しています。今年度は新型コロナウイルスの流行により中止となりましたが、そ菜品評会を「あまやさいグランプリ」として実施し、その様子をYouTubeでライブ配信しました。成果として、毎年多くの市民が訪れ、市内農業に対する消費者の理解が深まってきていることから、今後も継続して実施し、「あまやさい」を軸とした新たなイベントも検討してまいります。

「市場開放フェア」について、担当課から課題のところを、少しわかりやすい表現に変更しています。また、その下の「あまがさき環境オープンカレッジ事業を通じた食と環境に関する啓発」については、今後の取組の部分が変更になっております。

次に、**【取組の柱5】食の安全・安心の確保**です。

施策の方向性は、「監視・指導、検査などの充実」、「食の安全・安心に関する情報発信」の2つで、具体的な取組内容は3項目です。関連する評価指標として、「⑨食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている人の割合の増加」に向けて、主に生活衛生課と生活安全課による様々な取組が継続的に行われ、充実してきているといえます。

具体的な取組内容として、「消費生活啓発事業」では、啓発講座などで食に関するタイムリーな情報の提供を行い、消費者が自ら学び、考える機会の提供につながっています。今後も、「エシカル消費」、つまり「環境への配慮としてエコ商品を選んだり、地域への配慮として地元で作られたものを買ったりすること」、その普及・促進、食品ロスの削減等、食の安全・安心の確保につながる啓発を行ってまいります。

なお、「飲食店や食品関係業者に対する衛生指導及び講習会の実施」「食の安全・安心メール便、HP等での情報発信」について、下線部の箇所が変更になっております。正式な資料は、後日送らせていただきます。

最後に、**【取組の柱6】食育の推進運動と連携・協力体制**です。

施策の方向性は、「食育に関する情報発信の充実」、「食育月間、食育の日に合わせた普及啓発」、「連携、協働による食育の推進」の3つで、具体的な取組内容3つをまとめております。関連する評価指標の状況は、**【取組の柱3】**でご説明した「⑪市や地域と連携して食育活動に取り組む組織・団体数」が42から103へ増加していること、及び、「⑬食育に関心のある人の割合」は、計画策定時74%、H28年度75%で、以降アンケートの実施はありませんが、目標の80%以上を目指して引き続き取り組みます。

具体的な取組内容として、3段目の「関係機関、団体等との取組の連携」では、子どもたちからの朝食習慣づくりや野菜摂取に向け、懇話会の委員の皆様をはじめ、身近なところで体験活動の機会を提供する関係団体や商工会議所、飲食店、子ども食堂、渡船業者等、地域で連携した食育の推進に取り組んでまいりました。食を支えるネットワークの支援を継続的に実施し、食育活動に取り組む組織・団体数が増加したことは成果と考えていますが、複雑化・多様化する社会のニーズに対応するためにも、今後もその支援を継続し、後ほど報告します「食育に関するアンケート調査の結果」や「コロナ禍における市民の食生活の変化」の内容を活かして、食育の推進に取り組んでまいります。

	以上で、全体の進捗状況の説明を終わります。
会長	ありがとうございました。今、ご説明をいただきましたが、それぞれの柱ごとで担当課の方から追加の説明等はございますでしょうか。 保育運営課の方、何かございませんか。
拡大事務局	保育運営課です。今回の新型コロナの影響により、日ごろの保育所と違い、子どもの登所が少なかったり、密を避けるため、あまり調理活動ができない状況でした。今後、新型コロナが終息するか分からない状況のため、従来の取組に代わるような、子どもたちが食を身近に感じ、食を大切にできるような取組としてどのようなことが考えられるかを保育所と一緒にしっかり考えていきたいと思っています。4-5歳児の肥満度出現率については、在宅保育にご協力いただき、家庭にいる時間が増加したことも原因の一つなのかなと話しています。
会長	ありがとうございます。【取組の柱4】で農政課の方、何かございませんでしょうか。
拡大事務局	農政課です。農業祭につきましては、毎年1万人以上の方にお越しいただいて農業者、そして市民の方との、農業を通じたふれあいを楽しんでいたのですが、今年は、密になる行為を避けるために、残念ながら中止いたしました。 ただ、過去70年以上歴史があります「そ菜品評会」という催しにつきましては、農家の方から「ぜひ続けたい」という想いを聞いておりました。そこで密にならない方法で、でも多くの方に知っていただけるように、今年度初めて、YouTubeを使った実況中継という形で行いました。また、あわせて、事前に収録した農業者の方々の農作業の様子や農業に対する想いも放映させていただきました。ご覧になった方からは、大変ご好評のお言葉を頂戴しております。新型コロナが今後どのように終息するか分からない状況ですが、密にならない方法でR3年度につきましても、引き続き、農家の方々の想いと市民との繋がりをさらに深めていきたいと思っております。
会長	ありがとうございます。学校教育課の方は、何かありませんか。
拡大事務局	学校教育課です。新型コロナの影響で、今年度は研修会が中止されたり、全体で研修せずに地区での実施になったり、授業研究が冊子のみの発表になったりと変わっていますが、食育については、できる範囲で継続して進めております。
会長	ありがとうございました。それでは、質疑応答も含めて意見交換に移りたいと思いますが、取組の柱ごとに進めていきたいと思えます。まず、【取組の柱1】についてですが、成松委員は、何かご意見等ありませんでしょうか。
委員	「いただきます ごちそうさまの挨拶を必ずする」について、私の娘は保育園に通っています。保育園で教えてもらっているのか、挨拶をします。私としては、家庭で声掛けをすることも大事だと思いますが、保育園や幼稚園で教えてもらうことで、より普及が進むのではないかと思います。
会長	ありがとうございます。それでは、【取組の柱2】のことについて、学校関係の委員の方々に尋ねたいと思っております。藤原委員は何かありますでしょうか。
委員	今後に関しては、中学校給食が始まってくると思うので、そこにも地域の地産地消が絡んできたら面白いと感じました。
会長	ありがとうございます。
委員	小学校では、今まで、給食の時間はグループで楽しく会食していましたが、新型コロナの影響により、今はみんなが同じ方向をむいて、できるだけ話をせずに、黙って食べている状況です。ただ食べるだけの給食の時間になっているのは、本当に残念だと思っています。ただ、子どもたちの食への興味・関心は高いので、給食日より・献立表等で尼崎市産の米や小松菜といった地域

	<p>の食材に触れたり、行事食等に触れたりと食の楽しさや意義について伝えているところです。</p> <p>また、行政や民間企業とも連携し、食の重要性について学ぶ機会を設けています。例えば、本校ですと、4年生ではカルビー(株)をお招きし、おやつの指導をしていただき、選び方や量について学んでいます。5年生では、出汁の学習、6年生では野菜を使った生活習慣病予防のための学習等も行っています。</p>
委員	<p>私たちが持つ園北ファームでは、保育園や幼稚園、小学校と連携し、農業体験や収穫体験を行ってもらっています。幼稚園では、武庫愛の園幼稚園、立花愛の園幼稚園の約 370 名の園児を、里芋の収穫体験に受け入れました。体験に交えて、里芋とじゃがいもとさつまいもの違いについて話し、子どもたちはとても楽しく収穫体験をしていました。ただ、その時、里芋があまり獲れなかったため、後日クリスマスプレゼントとして里芋を届けると、サンタクロースを取り囲んで子どもたちは大変喜び、歓迎を受けました。この里芋収穫体験は神戸新聞にも取り上げられまして、わりと発信力があつたのではないかと思います。子どもたちが食べた結果はまだ聞いていませんので、また聞きたいと思っております。</p> <p>小学校では園田北小学校と小園小学校の生徒に来ていただき、環境体験学習を実施しました。園田北小学校では、事前に里芋の話を〇×のクイズ形式で行いましたが、子どもたちは正解するととても喜び、先生もびっくりされる程、45 分間真剣に取り組んでいたため、クイズのような子どもたちが興味をもつ工夫を凝らして、教えていくのは良いのかなと思えました。当日は玉ねぎや大根の植え付けを子どもたちと行い、後日大きくなった大根を届けると、子どもたちは成長ぶりにびっくりしていました。小園小学校では 140 人の児童に里芋の収穫体験をしてもらいました。僕も驚くほど、子どもたちは力を発揮し、泥まみれになりながら、里芋を外す面白さやその時のポキンポキンという心地よい音の体験をし、喜んでおりました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。【取組の柱3】のところでは、食育サポーターの会から向井委員、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>今は新型コロナの影響で、イベントをすべて中止している状態です。メンバーの活動として勉強会という形で、新メニューを考えたり、それらを動画にアップしたりしています。活動依頼がきたときに実施できるように準備をしている状態です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。それでは、【取組の柱4】のところでは、松谷委員いかがでしょうか。</p>
委員	<p>本来ならば、5月12日に「親子食農体験ツアー」を実施する予定でした。これは、毎年行っているもので、立花地域課と兵庫六甲農業協同組合と社会福祉協議会立花支部の3団体と協働して行っています。内容は、市内在住約10組程度を対象に、私たちのほ場で育てている玉ねぎ・じゃがいもを、参加者が自分たちで収穫し、近くの小学校で調理、その場で一緒に食べるという体験をしています。毎年、大変好評だったのですが、残念ながらコロナで実施できなかったということが、非常に残念だと思っています。今年も玉ねぎ等、植え付けはしているのですが、来年度も実施できるかどうか不安な状況です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。【取組の柱5】のところでは、小笹委員いかがでしょうか。</p>
委員	<p>コープでは、安心・安全に特に重点を置いていまして、製造のチェックや、農家へは定期的に農薬の使用量を確認しております。また、添加物を含まない食材をたくさん取り扱うようにしています。新型コロナの感染拡大以前は、コープ委員さんが店頭で商品紹介・試食を行い、添加物を使っていない安心な商品ということや味も分かっていたいただいた上で、知性と商品を広める取組をしていたのですが、今はできていない現状です。そのような、安心・安全に関する情報等も発信し</p>

	ております。
会長	ありがとうございます。【取組の柱6】について、内田委員いかがでしょうか。
委員	<p>農政課の松本課長からの紹介で、尼崎市にある育成調理師専門学校と連携した取組を行いました。育成調理師専門学校が全国食育王選手権大会で予選を突破して、決勝大会に進んだ際、決勝戦で田能の里芋の創作料理を出していただいて、特別賞「日本料理アカデミー賞」を受賞されました。今後も専門学校と連携しながら、里芋の新商品を出していこうとその連携に努めています。</p> <p>また、阪急百貨店には初めて百貨店として田能の里芋に注目してもらいました。農政課と JA の協力によって、阪急百貨店宝塚店で 120 袋販売し、とても人気で良かったと思います。田能の里芋の周知にも繋がるかと思いました。</p> <p>尼崎市健康増進すみれ会の皆様には、田能の里芋に関する講話を行い、クイズ形式で行ったところ、約半数の人が正解しました。その後、里芋をたくさん買っていただき、地産地消にも繋がりました。里芋がこんなに人気なのかと、自分でも驚く程、様々なところで里芋を使った取組が進んでいます。</p> <p>商品開発に関しては、立花にあるケーキ工房 Watanabe に協力してもらい、里芋プリンを作っていただきました。試食会も行っており、子ども含め、若い子にも非常に美味しいと言ってもらっています。猪名寺では、里芋しんじょうという饅頭を作り、おでんの中に入れた「猪名寺おでん」をつくり、居酒屋「空」と連携して新商品を発売しています。それから、私どもの地域ふれあい食堂では、防災食ということで、これからの災害に備えるために、真空パックの里芋料理を作っています。このような形で里芋等の野菜を使った地域のコミュニティの活性化とあらゆるところと連携した新商品の開発ができ、よかったと思っています。</p>
会長	ありがとうございます。里村委員、「お魚ゼミ」という取組をされていると聞いていますが、ご意見いかがでしょうか。
委員	「お魚ゼミ」ですが、小さな部屋で 16 名ほど密集した形での開催になりますので、ここ 1 年間は残念ながら開催できていません。募集については、開催することになったら、報告させていただきますと案内はしており、複数名ご予約いただいているのですが、見通しが立たない状態です。地域の方から ZOOM を使用して、「お魚ゼミ」のような講習はできないかという依頼も受けているのですが、やり方も含めて検討中という状態です。
会長	ありがとうございます。医師会では各種、糖尿病のフォーラムやあなたのカラダにいいことデイといった取組をなさっていると伺っていますが、中川委員から意見はありますでしょうか。
委員	適塩化フォーラムや糖尿病フォーラム、禁煙フォーラムを毎年実施するように決めていたのですが、新型コロナの流行ですべて中止となりまして、来年度どうしていくか検討しているところです。コロナの感染拡大状況次第というところです。
会長	ありがとうございます。歯の健康週間やいろいろな取組について、歯科医師会から水内委員、何かご意見等ありますでしょうか。
委員	歯科医師会でも、昨年のイベント等は中止になっております。
会長	全体を通して、「コロナ禍ということで予定されていたことがやりづらかった」或いは、「できたけれども限定的だった」というお話が多かったように思います。ただ、参加された方々の関心は非常に高かったというお話でした。

(メールにて報告)	
委員	立花南小学校の食育サークルの代表をしており、12月の学校独自の給食週間にあわせて、例年はサークルで動画を製作しています。ですが、今年は規模を縮小して、掲示板での展示(空ペットボトルと砂糖を使って飲料に含まれる砂糖の量を目で見てわかるようなもの)を行いました。

(2)食に関するアンケート調査について:「食育に関するアンケート」(資料4-1.4-2)

会長	議題(2)「食育に関するアンケート」調査について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>「食育に関するアンケート」の調査結果について報告いたします。</p> <p>本アンケートは、第2次尼崎市食育推進計画における評価指標の進捗状況の把握等を目的に、H28年度より毎年1回、10月頃に継続して行っている調査です。昨年同様、市内の私立幼稚園・こども園にご協力いただき、5歳児の保護者を対象としています。各幼稚園・こども園に保護者への調査用紙の配布と回答をお願いし、今年度は497名の保護者の皆さまから回答をいただきました。その結果と今後の事業展開に向けてご説明いたします。</p> <p>まず、食育推進計画の進捗状況にまつわる項目についてです。「①いただきます ごちそうさまの挨拶を必ずする子どもの割合」については、目標値に達していない状況、「⑤朝食の摂取状況」については、幼児はほぼ横ばいの状況です。本調査では、保護者の朝食摂取状況も把握しており、幼児の保護者と限られた範囲での成人という結果のため、参考値としての取り扱いですが、83%の方が「ほぼ毎日朝食を食べている」という結果でした。朝食摂取状況に関する子どもと保護者との関係性をみたところ、昨年度と同様、朝食を「ほぼ毎日食べている」保護者は子ども「ほぼ毎日食べている」と回答している割合が高いという相関がみられました。</p> <p>続いて、朝食の摂取状況と生活リズムの関係性についての結果です。今年度は、昨年度第2回食育推進懇話会でご意見をいただきました“生活リズム”に関する項目を追加し、調査を行いました。“「起床時間」「朝食時間」「就寝時間」を決めているか」という問いの回答を、「毎日同じくらいの時間である」を3点、「平日と休日で時間は異なる」を2点、「時間は決まっていない」を1点と点数化し、合計点数が高い程、生活リズムが整っていると捉えて、朝食摂取状況との相関をみました。結果、生活リズムが良い程、「ほとんど毎日朝食を食べている」割合が高いという傾向がみられました。生活リズムと「主食、主菜、副菜が揃っている」といった食事バランスとの関係性についてもみましたが、相関はみられませんでした。</p> <p>次に、朝食時間と子の食事バランスとの関係性について相関をみた結果を説明します。起きる時間が早い程、「主食、主菜、副菜」が揃った食事や「主食と主菜もしくは副菜といったおかず」を食べている子の割合が高い傾向がみられました。一方、遅くなるほど、「主食と果物等」や「主食のみ」といった割合が高くなっており、肉や魚、卵、大豆製品といった主菜や野菜やきのこ、海藻を使った副菜を食べておらず、糖質に偏っている傾向がみられました。</p> <p>また、子の食事バランスに関して、他の項目との相関をみたところ、いくつかの項目で相関がみられました。「保護者の食育への関心」との相関については、保護者が食育に「関心がある」「どちらかと言えば関心がある」と答えた方が、子の朝食において「主食、主菜、副菜」もしくは「主食、主菜または副菜」を食べており、食事バランスが整っているという傾向がみられました。</p>

	<p>今年度の調査では、コロナ禍による何かしらの影響が結果に見られるのではと予想していましたが、本調査においては、昨年度と大きな変化は見られませんでした。本日ご説明しました結果から、毎日朝食を食べるということにおいて、規則正しい生活リズムと関係している可能性が分かりました。このことから、子どもに対しては、「朝食の大切さ」や「バランス良く食べよう」といった内容の食への関心を高めるための取組と共に、「早寝早起き朝ごはん」といった規則正しい生活リズムをつくるための声掛けも必要であると再認識しました。また、保護者に対しては、“食育へ関心がある群ほど、子どもの食事バランスが良い”という結果や保護者自身の朝食摂取状況と子の朝食摂取状況との間に関係性がみられたこと、さらに、本調査の対象者は5歳児であり、この時期は保護者と子どもの生活リズムが密接に関係していると考えられることから、子と保護者が一緒となり、望ましい食生活と規則正しい生活リズムを実践できるような取組が必要であります。規則正しい生活リズムこそが食育を進めるためにも根本的に大切なことだと認識しております。これまでも地域と連携し、親子を対象とした食育教室等進めてきているところですが、コロナ禍により「調理実習」や「試食」を取り入れた手法の教室が中止される中、従来と同じ手法での食育活動は大変難しい状況です。引き続き、家庭と地域を巻き込んだ食育活動を進めていくためにも、今までの手法に代わる効果的な取組について検討し、進めてまいりたいと思っております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。先ほどの説明につきまして、意見交換をしたいと思えます。「早寝早起き朝ごはん」は、小学校でもずっと以前から取り組まれていることだと思えますが、都倉委員、今のご説明を聞いて、何かご意見はございませんでしょうか。</p>
委員	<p>小学校でも「早寝早起き朝ごはん」ということは、どの小学校もずっと言い続けていることで、保護者への理解も進んでいると思えます。ただ、様々な家庭環境があるので、なかなか100%や高いところまで至らず、多様な家庭環境がある中での難しさを感じているところではあります。</p>
会長	<p>ありがとうございます。保育運営課の方、先ほどの結果でお考え等ございませんでしょうか。</p>
拡大事務局	<p>本当に生活リズムと食との結びつきは強いと子どもたちの様子を見ていると思えます。ただ、保育所では就労されている保護者の方がほとんどですので、忙しさ等を私たちは理解した上で、保護者の方に啓発を行っています。あくまでも、こちらの想いや生活リズムを整えないといけないという希望だけを伝えるだけではなく、保護者の方々の生活を理解しながら、そのような大切さを知らせていこうと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございます。朝食摂取に関しては、家庭環境の問題等があり、しかし、行政としては100%を目指すという少し相矛盾するところもありますが、朝食を食べるということは、子どもたちやその子どもたちが成人になった時、生活習慣病予防の観点から非常に重要であると思えますので、大事なことかと思えます。</p>

(2)食に関するアンケート調査について:「食生活に関するアンケート」(資料5-1.5-2)

会長	<p>事務局から「食生活アンケート」についてご報告をお願いします。</p>
事務局	<p>昨年11月～12月に実施した食生活アンケートについて報告します。 このアンケートですが、本市が、第2次尼崎市食育推進計画に基づいて事業を実施しているなか、本日すでにいろいろなところで話題にあがっているコロナ禍の状況で、市民の食生活が大きく変化しているものと予想されるため、その変化を捉えて今後の取組展開の参考とするために実</p>

<p>施しております。対象は成人で、事業参加者や施設利用者、市職員等、619名から回答を得ています。なお、回答者の属性につきましては、男女別では女性が78%と多く、年代別では20-30歳代で約半数を占めているという、やや偏りがみられる状況です。</p> <p>まず、評価指標の進捗状況について、5項目の現状把握を行いました。対象者を無作為に抽出したわけではないため、参考値としての取り扱いになりますが、結果、全ての項目におきましてH26の計画策定時のアンケート、H28のいきいき健康プランあまがさきという計画策定時に実施した大規模アンケートの結果と比較して増加傾向を認めていたという結果でした。目標値に『-』が入っているものは、評価指標上は幼児や小学生を対象としており、成人の目標値を設定していない項目です。また、「⑨食品の安全性に関する基礎的な知識」や「⑬食育への関心」があると回答する人ほど、「⑤朝食を毎日食べる」と「⑦バランスの良い食事を食べる」ことを実践している割合が高い傾向でした。</p> <p>次に、コロナ禍における食生活の変化について、ご報告します。</p> <p>グラフの通り、10項目について、増えた、変わらない、減った、以前からしない、わからないの回答で聞いたところ、全体的に「変わらない」と回答した割合が高いものの、コロナ禍で機会が「増えた」として、「自宅で調理をする:30%」「新たな食材や料理にチャレンジする:29%」「家族と一緒に食事をする:24%」等、家庭の中で、調理や食事をする機会が増えたり、食に関して新たなチャレンジをした市民が10-30%程度いることがわかりました。また、外出の回数を減らしたいと考えるためか、食の備蓄に対する意識にも変化がみられ、テイクアウトや調理キット等、食事を準備する方法も多様化していることが把握できました。機会が減ったこととしては、会食を自粛するように求められているためか、「友人・知人と一緒に食事をする:73%」や、食品ロスが問題視されているためか「食材や料理を廃棄する:13%」が、他の項目と比べて、割合が高くなっています。また、「家族と一緒に調理をする」ことが「増えた」と回答した11%の人に、どのようなものを作ったか具体的に聞いたところ、お菓子やパン、ピザ、ぎょうざ、おでん等、普段の食事に比べてやや時間や手間がかかるものが数多く聞かれました。</p> <p>これらの結果を受けた事業への活用について、議題(1)でもご報告したとおり、コロナ禍で市の事業を中止、縮小していることから、特に「作る」や「一緒に食べる」ことを通して、「食って楽しいんだ」、「こんなに簡単に作れるんだ」、「バランスを考えることって難しくないんだ」ということを知ってもらうきっかけになるようにとこれまで展開してきましたが、それらの取組は手法の変更を余儀なくされている状況です。しかし、このような状況下でも、評価指標「⑤朝食を毎日食べる」、「⑦バランスよく食べる」等の目標達成に向け、また、近年増加している災害に対応するための防災の観点からも、今回調査で分かった市民の食生活の変化に応じた支援につながるような、例えば、レトルト食品や調理キットを活用してバランスを整える方法や、すでに一部の事業で実施している「パッククッキング」や「簡単みそ汁作り」と言った簡単な調理法の啓発、乾物や缶詰等長期保存がきくような食材を取り入れたレシピを積極的に発信する等、普及啓発を継続して展開していきたいと考えています。食育推進懇話会の委員の皆様や健康づくり推進員の方々、関係各課等、「食育活動に取り組む人・団体」と今回の結果を共有し、連携して活動を支援しながら、地域全体での食育の推進に取り組むことを目指したいと考えています。</p>	<p>会長</p> <p>ありがとうございます。コロナ禍ということで、従来とは考えられないような、食生活に大きな変化があり、すべてが悪くなったような気がしますが、一方で、家族や家庭でいろんなものを作ったり、食べたりする機会が増えたという結果でありました。これらの発表等、全般的に聞かれて三浦委員、ご意見はありますでしょうか。</p>
--	--

副会長	予想するところで、家族と共食する機会が増えたというのは、せざるを得ない状況であったのだと思いますが、とても良い事だと思います。これをきっかけに外食にも良さがあるし、家庭にも良さがあるので、両方を思い起こさせて、いい機会ではなかったかなと思います。一緒にごはんを作るという点についても、コロナ禍でなければ、このような機会もなかったかなと思いますので、いように捉えて、まったく前と同じようには戻らないのではないかと想像しておりますが、良いところを掘り出して、そこを推進していけたらと思います。
会長	ありがとうございます。今回、改めて緊急事態宣言が出ている中で、流通や販売をされている立場で、いろんな変化があると思いますが、小笹委員、何かご意見等ありませんか。
委員	緊急事態宣言や新型コロナの影響で、「内食」といった、おうちの中で食べる機会が増えきて、スーパーにも毎日たくさんの方にお越しいただいています。おうちでご飯を食べるということは、おうちで何かしら作っているということで、様変わりしてきています。これが定着して、ご家族で食べる機会が増えるといいなと思います。
会長	市民の立場からご自身や周りの変化で、何かしら大きな変化があるかと思いますが、成松委員、お考え等ありませんか。
委員	コロナ禍で変化したことと言えば、娘の学校が休みになり、より子どもと接する時間が長くなったことや、料理する機会が前よりもすごく増えました。また、主人のテレワークの関係もあり、家族でコミュニケーションを取れる機会が多くなりました。コロナ禍で悪くなったことばかりではなくて、人との繋がりは密接になったことは良かったかなと思います。

(3) その他：第2次尼崎市食育推進計画の今後の方向性について

会長	議題(3)第2次尼崎市食育推進計画の今後の方向性について、事務局からご説明をよろしくお願います。
事務局	食育は、健康づくり、消費生活、農業や保育・教育など幅広く関係しており、次期計画の策定にあたっては、関連する「第4次地域いきいき健康プランあまがさき」及び「尼崎市健康増進計画」と整合性を図りながら、一体となって市民の健康寿命の延伸に向けた効果的な取組を検討する必要があります。 第2次食育推進計画はH27年度からR2年度までの6年計画です。このため、今年度が最終年度となっておりますが、兵庫県下の41市町のうち26市町は、健康・医療関係等の計画と一体的に作成している状況もあり、尼崎市の「地域いきいき健康プランあまがさき」とあわせるかたちでR4年度までの延長を検討しておりますのでご了承ください。計画延長期間は、本日のシートを活用しつつ、進捗管理に努めてまいります。
会長	こちらはご報告になりますでしょうか。本日の議事については、以上となりますので、進行を事務局の方にお返ししたいと思います。
事務局	本日は多様なご意見をいただきまして、どうもありがとうございます。 最後の食生活に関するアンケートにつきましては、由田先生、三浦先生とお話をする中でご提案をいただき、実施させていただきました。本日、様々なところで話にあがっている「コロナ禍」という状況でも、委員の皆様がいろいろな工夫をされていることが伺え、先ほど成松委員からもご意見いただいたように、よい影響として考えられる部分にも焦点をあてて取り組んでいきたいと考えております。本日はこれで終了させていただきます。ありがとうございました。